

理事に就任して

川崎地質株式会社 北日本支社

菅野 孝美



—はじめに—

令和5年9月に吉田透の後任として（一社）東北地質調査業協会の理事に就任しました、川崎地質（株）北日本支社の菅野孝美です。同時に技術委員会の副委員長も兼任しておりますが、不慣れのため皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますがよろしくお願い致します。

弊社北日本支社は、他会員企業と同じく東日本大震災以来、災害復興・復旧のために非常に忙しい事務所でしたが、震災後10年が経過し、私はその後の持続的・継続的な事業所運営をという段階で赴任しました。

また、東北地質調査業協会は、会員企業のつながりが強く、頻繁に会合があるなど活動も活発で、地域に密着している印象を持ちました。私も東北に来て、これから皆様と共に地質調査業協会発展のために尽力して参りますので、よろしくお願い致します。

—わたしの出身と大学を卒業するまで—

私の生まれは福島県の二本松市で、高校までは福島に住んでおりましたので、出身は東北と言うことになります。二本松は提灯祭りですごく有名ですね。したがって、高校を卒業するまでの18年は福島の山に囲まれた地域でのびのびと少年時代を過ごしました。いまでも両親は二本松市に住んでおり健在ですが、近くに来てなかなか会って親孝行もできない状況です。



出身地二本松の提灯祭り

高校を卒業してから、その後の42年間は故郷を離れて生活しております。東京での浪人生活で疲弊した時代もありましたが、入学した新潟大学では岩石学を学び、仲間とともに充実した大学生活を送ることができました。大学生活で印象的だったのは日航機のジャンボ墜落事件でした。いまでも暑いフィールドを踏査しながらラジオで捜索状況を聞いていたのを昨日の様に思い起こします。

新潟大学を卒業すると、恩師を追って愛媛大学に移り、飛騨変成帯の研究を進めました。

—入社しはじめの頃—

愛媛大学大学院卒業後は川崎地質へ入社し東京支店に配属されました。そして、入社後愛媛大学の後輩と結婚することになり、まもなく2人の子供を授かりました。いまでは2人の子供も大学を卒業して東京で社会人となっております。

会社に入って3年間は地質しか知らない偏屈ものでしたが、北陸支店（新潟

市)への転勤をきっかけに、仕事の幅も広がっていきました。

—佐渡島への転勤—

佐渡事務所を立ち上げる際は、事務所所長として佐渡島へ転勤して4年間を過ごしましたが、佐渡での経験はさらに土木分野の仕事に興味を持つきっかけとなり、業務は地質調査だけではなく、設計・施工まで経験することも多くなっていきました。佐渡で培った経験や人とのつながりは今でも私の礎となっているところがとても大きいです。



佐渡島のサドッキー

—再び東京へ転勤—

佐渡から北陸支店に戻って間もなくすると、事業本部立ち上げに伴って東京に再び単身赴任することになりました。事業本部では、防災・設計部の部長として部下の面倒をみながら、やりがいのある仕事でしたが、まもなくベトナム事務所立ち上げにともなって兼務となり、さらに企画した本人が単身でベトナムへ赴任することになってしまった訳です。

—ベトナムでの10年間—

海外赴任と言うと聞こえはいいのですが、中身は本当に大変でした。言葉もわからないベトナムの地へ単身で渡り、現地で採用した技術社員2名、通訳を含む事務系社員2名の5名体制で、まずは地道な営業活動からはじめ、先発の日系現地企業とタッグを組んで仕事を始めまし

た。しかし、いきなり仕事飛び込んできても、日本側はあたふたするばかりで、なかなか全社協力一致というわけにはいかなかったのです。

そして数年が経過して、地道な営業活動が実り、ベトナム政府から地すべり対策工事の調査、設計・施工を直接受注したときは、本当にうれしくベトナム人社員一同と手を取り合って涙したものでした。それが帰国する直前のコロナ禍での受注でした。工事を行ったダラット市はコロナ禍により完全に隔離都市となって空港が閉鎖し、日本からの応援はおろかベトナム国内他地域からの人材の投入できずに、まさしく血みどろの施工となってしまいました。しかし、ベトナム人スタッフと一緒にやって行った工事もなんとか終わり、いつしかコロナ禍の都市閉鎖も解除され無事日本に戻ることができました。大変苦勞しましたが、今となっては良き経験、良き思い出となりました。



ベトナムでの集水井工事



完成したベトナム初の集水井

—そして東北に—

昨年9月に、仙台の川崎地質北日本支社に支社長として赴任しました。相も変わらず単身赴任ですが、これまでの小さな事務所とは違って、40人からなる大所帯でなにやらと大変な日々を送っております。時代も変化し、私が日本で仕事をしていたときに比べて大きく社会環境が変革しており、一筋縄にはいかないですね。

久々に帰国して、東北のおいしい魚介類や酒、肴も豊富で、海に山と自然もとてもきれいな東北に赴任できたことは良かったです。

8月には仙台の七夕祭りを子供の頃以来、50年近くぶりで見ることができました。開催期間中の仙台市内はとてにぎわっており、子供の頃にみた七夕祭りを思い出しました。



仙台市の七夕祭り

—おわりに—

とりとめもない話に終始してしまいましたが、地質調査業を取り巻く環境は厳しさを増しており、東北地質調査業協会の役割も大きなものとなっていると思います。我が社のみならず協力会社の人材も年々しぼんでいく様を見て、この業界の将来に不安を抱いてしまいます。しかし、我々の業界が持っている技術を後世に伝承し、さらに魅力あるものに変えていくためには我々のたゆまない努力が大事だと思います。

これまで東北地質調査業協会を発展させてきた先人たちの努力を踏みにじることなく、今後ともに協会の発展に尽力していく所存です。会員企業の皆様と一緒に、頑張っていきたいと考えておりますので引き続きご指導よろしくお願い致します。